

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 29 日現在

機関番号：33917

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2011～2014

課題番号：23682011

研究課題名(和文)古代アンデスにおける都市構造の研究

研究課題名(英文)A Study of Urban Structures in the Ancient Andes

研究代表者

渡部 森哉(WATANABE, Shinya)

南山大学・人文学部・准教授

研究者番号：00434605

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,700,000円

研究成果の概要(和文)：南米アンデス地域において後800-1000年頃にワリ帝国が台頭した。本研究はワリ帝国の北端に位置する行政センターであるエル・パラシオ遺跡を事例として、アンデスの都市構造の共通性と、エル・パラシオの特殊性を詳らかにすることを目的として遂行した。同遺跡において第3次発掘調査を実施し、発掘データの綿密な分析を行った。ワリ帝国の行政センターは内部が細分される直行構造のタイプと、不規則に建築物が集合するタイプがあり、前者は多くの人々が恒常的に生活する場ではないのに対し、後者は相対的に多くの人々が生活し、墓や水路などの施設が伴う。エル・パラシオは後者に含まれることが判明した。

研究成果の概要(英文)：The Wari Empire developed from A.D. 800 to A.D. 1000 in the Andean region of South America. This research took as an example the El Palacio site, an administrative center located at northern extreme of the Wari Empire, in order to understand the common characteristics within Andean urban structures and the uniqueness of El Palacio. The third season of excavations was carried out at El Palacio and analyzed the excavated materials in detail. There are two types of administrative centers in the Wari Empire: the first is the rectangular type whose interior is subdivided and the second type is composed of an accumulation of irregular structures. It was supposed that while not many people lived continuously at the first type of center, relatively more people occupied the second type of center that contains canals and tombs. The El Palacio site corresponds to the second type.

研究分野：アンデス考古学

キーワード：考古学 アンデス ペルー 都市 国家 ワリ

1. 研究開始当初の背景

人類史において都市の発生は画期的な出来事であった。都市は古代文明、古代国家の指標の一つとされるが、本研究は南米大陸西部のアンデス地域を事例として、都市の性格、構造を解明とすることを目的とする。

アンデスの都市は、形成期(3000-50 B.C.)の神殿建築を発展的に受け継ぎ、そこに政治的・経済的機能が加わり形成されたと大まかに説明できる。しかし各文化、国家の都市構造の比較研究は進んでいなかった。

本研究ではインカ帝国の祖型と見なされるワリ帝国(A.D.600-1000)の都市遺跡を事例とした。ワリ帝国は地方支配のために行政センターを設置したが、それらの多くは都市的な特徴を有しているが、これまで詳細な研究は進んでいなかった。その一因は1980年代に盛んになったテロ活動の範囲と、ワリ文化の遺跡分布が重なっていたことにある。21世紀になってようやくワリ研究が進み、多くの重要な遺跡が発見、調査された。その1つが本研究の調査対象とする、ペルー北部高地に位置するエル・パラシオ遺跡である。

2. 研究の目的

古代アンデス世界における都市構造の特徴を明らかにする。ワリ帝国の行政センターの1つエル・パラシオ遺跡を事例として、ワリ帝国の他の行政センター、およびインカ帝国など他の時代の都市的遺跡と比較検討し、アンデスの都市構造の共通性とエル・パラシオ遺跡の特殊性を明らかにする。

ワリ帝国は支配域に道路網を敷き、各地に支配の拠点となる行政センターを設置した。ペルー北部高地カハマルカ地方に位置するエル・パラシオは現在確認されているなかで山地における最北のセンターである。発掘調査に基づき、同遺跡の建築構造、食料・工芸品生産・消費活動、人間集団の構成を明らかにする。またこうした都市遺跡をアンデス文明の軌跡のなかに位置づけ、人類史における都市の成立と展開に関する議論に寄与する。

3. 研究の方法

(1)エル・パラシオ遺跡の第1次発掘調査(2008)、第2次発掘調査(2010)の出土遺物の分析を2011年度に行った。特に建築構造の変遷と、それに伴う遺物の時期変化を解明することに重点を置いた。出土土器を粗製土器も含め全て分析し、分類を行い、タイプを決定した。タイプごとに土器片をカウントし、地区ごと層位ごとの出土傾向を把握した。出土土器の中の外来土器に注目し、どれだけ外来の要素が含まれているのかを検討した。動物遺存体の分析は他の研究者に依頼した。

(2)2012年には同遺跡で第3次発掘調査を実施した。第2次発掘調査の発掘区であるB1

区を拡張するとともに、他に3つの発掘区(B2、C2、C3)を設定した。これによって遺跡が平地だけではなく山の斜面まで広がっているかどうかを確認した。また2008、2010年に集中的に発掘調査を実施したB1区で確認された特徴が遺跡全体に認められるかを検証した。特に建築の特徴に共通性が認められるか、同じ建築軸の建物がどれだけ広がっているかに注目した。

(3)2013、2014年度には2012年の第3次発掘調査出土土器の詳細な分析を行い、出版のための図面化作業を進めた。出土土器の編年に基づき、建築の変遷を把握した。また出土土器タイプを基準として、ペルー北部高地における同時代の遺跡分布を確認した。

(4)関連遺跡を踏査し、エル・パラシオ遺跡の特徴が同時代のどの遺跡、地域と共通点を示すのかを確認した。

(5)第1次発掘調査、第2次発掘調査で出土した資料の放射性炭素年代を測定し、エル・パラシオ遺跡の利用年代を確認し、他遺跡と比較した。

4. 研究成果

(1)エル・パラシオ遺跡がワリ帝国の行政センターであることを確認した。一方で、ワリ帝国の支配下で在地のカハマルカ文化は大きく変化せず存続した。カハマルカ文化のカオリン土器とワリ様式土器の融合様式は非常にまれである。このことは、後のインカ帝国(後15、16世紀)の支配下でカハマルカ地方に行政センターが設置されたにもかかわらず、カハマルカ文化の建築様式や土器様式が大きく変化しなかったことと同様である。そのためワリ文化とカハマルカ文化が併存したことは、ワリの支配構造のみならず、カハマルカ文化の特徴に起因すると考えられる。他地域の例では、中央集権的社会間では文化の融合は頻繁に起きるが、カハマルカ文化は非中央集権的社会であったためワリ帝国と共存可能であったと考えられる。また、ワリ帝国はそもそもワリの土器様式や建築様式を押しつけたわけではなかった。

またワリ帝国の他の行政センターの多くが、外壁をはじめに建て、次に内部を分割する長方形プランを有するのに対し、エル・パラシオは不規則な建造物が集中し、墓や水路を伴うことを確認した。さらに同じ場所で何度も改修を行っており、少なくとも5つの建築フェイズに分けることができることを確認した。集中的に発掘を行ったB1区と同様に、他の3つの発掘区においても複数の建築フェイズを確認した。

同一地点における建築の建て替えという同様の特徴は、他にはペルー南部のワロ遺跡群に認められるのみである。他の行政センタ

一の多くは、水平方向に拡張する。この違いが何に対応するのかを今後検討する必要がある。

(2)出土土器のおよそ9割は在地のカハマルカ文化の土器であり、カハマルカ盆地の編年で、カハマルカ中期B、カハマルカ中期C、カハマルカ後期のはじめに対応することが確認された。放射性炭素年代でおよそ後750-1000年に同遺跡が建設、利用されたと考えられる。カハマルカ中期Aにエル・パラシオの始まりが遡るかどうか1つの検討課題であったが、発掘データからその証拠は得られなかった。しかしエル・パラシオは広さ100ヘクタールを超える遺跡であり、どこから建設が始まったかが分からないため、今後の調査によって、遺跡の利用開始年代がより古くなる可能性もある。

(3)出土土器の中には割合は多くはないが外来の土器が含まれている。人間集団の多様性が都市の特徴の1つであるとすれば、土器様式の多様性はそれを示す指標となる。ワリ帝国の支配者層の土器と考えられるワリ様式土器は、奉納品や墓の副葬品としてほぼ完形で出土するものもあるが、多くは破片であり、出土する場所や層位に偏りはなかった。ワリ様式として包括される土器群のうち、アタルコ様式、ワマンガ様式のものが多く確認された。またワリ様式土器の特徴の1つとして多様な人物表現があるが、エル・パラシオでは顔を市松紋様状に4分割し赤と白で塗り分ける人物が多く現れる。ペルー北海岸系の土器の器形に伴うものもある。多様な人物表現が民族集団の種類に対応していると考えれば、ペルー北海岸系の人々である可能性が高いと考えられる。

(4)全ての粗製土器のタイプ分類を行い、それと照らし合わせ、ヘケテペケ川中流域にワリ期の遺跡が多く分布することを確認した。またこれらの遺跡では、前時代や後の時代の利用の痕跡が認められないことも確認した。ワリ帝国の支配下における人間集団の移動に起因するのかどうか、今後検討する必要がある。

(5)カハマルカ中期Cに多くの奉納、埋葬が行われたことが確認された。しかしエル・パラシオは中期Cの終わりに放棄されたわけではなく、遺跡内で利用する場所が変化したと考えられる。エル・パラシオ遺跡はカハマルカ後期のはじめまで利用された。

(6)カハマルカ後期にA区の矩形建造物の建設が始まり、建設途中で放棄されたことが2008年の第1次発掘調査で確認されていた。第3次発掘調査で山の斜面に位置するC2区、C3区の発掘調査を行った結果、カハマルカ後期に多くの建設活動が行われたことが明ら

かとなった。総合すると、エル・パラシオが利用された最後の時期に拡張傾向が強まり、その後突然放棄されたのであり、徐々に放棄されたわけではないことは明らかである。さらにC2、C3区では放棄に対応する層から、大量の石器が出土しており、その多くが完形、あるいは製作途中の打製石斧や棍棒頭であった。ワリ帝国の支配下にあった人々が、帝国の崩壊、あるいは衰退とともに、エル・パラシオを離れていったと考えられる。

(7)インカ帝国の行政センターはヨーロッパ的な都市とは異なり、恒常的に人々が生活する場ではなく、臣民が労働を行い、物資を管理し、そうした活動を儀礼的に意味づける場であったとされる。そうした特徴はワリ帝国の行政センターの多くに認められる。しかし首都ワリ遺跡をはじめとする遺跡には恒常的にかなりの人口が生活していたと考えられ、その1つがエル・パラシオである。これまでワリの行政センターと一括りにしていた諸遺跡を少なくとも2つのグループに分けることが有効である。

(8)エクアドルの海に生息するスポンディルス貝やペルー南部高地に原産地のある黒曜石など、遠隔地から運ばれてきたものが確認されている。カハマルカ盆地においてこうした遺物が出土するのは、形成期の神殿遺跡とエル・パラシオ遺跡のみである。単なる交易による結果ではなく、統治システムと結びついた儀礼の仕組みによって物資が移動したと考えられる。

(9)エル・パラシオ遺跡では多くの墓が見つかり、埋葬形態に多様性が認められる。半地下式の墓室、壁の基礎部分に埋め込まれた墓、床を切り込んで作られた土坑墓、覆土中の一次埋葬、覆土中の二次埋葬、などが確認されている。また、同時期にカハマルカ地方にはチュルパと呼ばれる地上式塔状墓、ベントニーリヤスと呼ばれる岩窟墓なども現れる。人骨の分析は未了であるが、半地下式墓室、および床を切り込んで作られた土坑墓にワリ様式の遺物が共伴する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

Watanabe, Shinya, Cronología y dinámica social durante el período Wari: nuevos descubrimientos en el sitio arqueológico El Palacio, sierra norte del Perú, *Andes: Boletín del Centro de Estudios Precolombinos de la Universidad de Varsovia*, 査読有, No.9, 印刷中.

渡部森哉, 「ワリ帝国の行政センターと地方統治—ペルー北部高地エル・パラシオ遺跡の事例」, 『古代アメリカ』, 査読有, 17号, 2014, pp.25-52.

Watanabe, Shinya, Sociopolitical Dynamics and Cultural Continuity in the Peruvian Northern Highlands: A Case Study from Middle Horizon Cajamarca, *Boletín de Arqueología PUCP*, 査読有, No.16, 2014, pp.105-129.

渡部森哉, 「グリフィンは飛んでいく—動物図像から見る中央アンデス先スペイン期ワリ国家の地方支配—」, 『共生の文化研究』, 査読無, 7号, 2013, pp.73-86.

渡部森哉, 「アンデス文明形成期の神殿社会」, 『人類学研究所研究論集』, 査読無, 1号, 2013, pp.33-52.

Watanabe, Shinya, Continuidad cultural y elementos foráneos en Cajamarca, sierra norte del Perú: el caso del Horizonte Medio, *Boletín de Arqueología PUCP*, 査読有, No.14, 2011, pp.221-238.

〔学会発表〕(計12件)

Watanabe, Shinya, Wari y Tiwanaku: una perspectiva norteña. Simposio Internacional: Transformaciones y continuidades sociales en la formación del Estado Primario. 2015.02.14, 国立民族学博物館(大阪府・茨木市).

渡部森哉, 「ワリ帝国における土器の多様性について」, 古代アメリカ学会第19回研究大会, 2014.12.07, 名古屋大学(愛知県・名古屋市).

渡部森哉, 「ペルー北部、エル・パラシオ遺跡 2012年出土遺物分析概報」, 古代アメリカ学会第18回研究大会, 2013.12.07, 山形大学(山形県・山形市).

瀧上舞, ソニア・ギジェン, 渡部森哉, 米田穰, 「インカ帝国における食性の地域差—炭素・窒素同位体比を用いた研究—」, 古代アメリカ学会第18回研究大会, 2013.12.07, 山形大学(山形県・山形市).

清家大樹, 鶴澤和宏, 関雄二, 井口欣也, 渡部森哉, 「先スペイン期ペルー北部高地におけるラクダ科飼養の開始と変遷—動物考古学的アプローチから—」, 古代アメリカ学会第18回研究大会, 2013.12.07, 山形大学(山形県・山形市).

Watanabe, Shinya, Dominio provincial wari en el Horizonte Medio: un caso de la

sierra norte del Perú, Simposio Internacional: Diversidad y Uniformidad en el Horizonte Medio, 2013.2.16, 国立民族学博物館(大阪府・茨木市).

渡部森哉, 「ワリ帝国における地方支配—ペルー北部、エル・パラシオ遺跡の発掘調査—」, 古代アメリカ学会第17回研究大会, 2012.12.01, 国立民族学博物館(大阪府・茨木市).

Watanabe, Shinya, Cronología y dinámica social durante el período Wari: nuevos descubrimientos en el sitio arqueológico El Palacio, sierra norte del Perú, Simposio Internacional: Nuevas perspectivas en la organización política Huari, 2012.08.18, リマ(ペルー).

Watanabe, Shinya, El concepto de centro administrativo: el caso de El Palacio, sierra norte del Perú, 54° Congreso Internacional de Americanistas, 2012.07.19, ウィーン(オーストリア).

Watanabe, Shinya, Wari y Cajamarca: excavaciones en el sitio arqueológico El Palacio, Simposio: Cajamarca Prehispánica: Recientes Investigaciones Arqueológicas en la Región, 2012.02.29, カハマルカ(ペルー).

渡部森哉, 「古代アンデスのワリ国家における地方支配—エル・パラシオ遺跡の発掘調査より—」, 日本ラテンアメリカ学会中部日本部会研究会, 2011.12.17, 南山大学(愛知県・名古屋市).

渡部森哉, 「先スペイン期アンデスにおける動物分類について」, 愛知県立大学学術フォーラム「聖獣と古代王権」, 2011.06.25, 愛知県立大学(愛知県・長久手市).

〔図書〕(計4件)

Watanabe, Shinya, Editorial Shumpusha, *Estructura en los Andes Antiguos*, 2013, 302p.

Watanabe, Shinya, Editorial Shumpusha, *Dominio provincial en el Imperio inca*, 2013, 290p.

渡部森哉, 行路社, 「ペルーでの考古学調査—ソフトなパワーの一事例」, 『地球時代の「ソフトパワー」—内発力と平和のための知恵』(浅香幸枝編), 2012, pp.193-208.

渡部森哉, 風媒社, 「古代アンデス文明」, 『古代メソアメリカ・アンデス文明への誘

い』(杉山三郎, 嘉幡茂, 渡部森哉), 2011,
pp.81-130.

6 . 研究組織

(1)研究代表者

渡部 森哉 (WATANABE, Shinya)

南山大学・人文学部・准教授

研究者番号：00434605